

議会報告会報告書

開催日時	平成 31 年 4 月 19 日（金）午後 7 時 00 分～8 時 20 分		
開催場所	飯高老人福祉センター		
出席議員	濱口 高志、橘 大介、赤塚 かおり、栗谷 建一郎、沖 和哉 坂口 秀夫、久松 倫生		
	司会進行者	久松 倫生	
	報告者	赤塚 かおり	
	記録者	橘 大介	
参加人数	11 名		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 中 島 清 晴 様

平成 31 年 4 月 22 日

議会報告会実施要綱第 8 条の規定により提出します。

議会報告会第 4 班

代表者 濱口 高志

【第1部の主な質疑応答・意見等】

問 空き家対策について、補助額はどうなっているか。

答 1軒25万円×12軒分の予算である。

問 25万円では少なすぎるのではないか。飯高でも空き家は増えており、みな費用がかさむためちゅうちょする。荷物の搬出も含め、費用はかかるため、増額を願う。また、空き家にも固定資産税はかかるのか。

答 固定資産税は、住宅にはほぼかからないだろうが、土地には従来通り賦課される。個人の資産への補助となるため、あくまでも取り壊しへのとっかかりのための費用程度の金額である。今年度からの新規事業であり、利用状況もみながら、金額や件数の精査をして行く必要はあるかもしれない。

問 空き家バンクでの補助はどうであるか。

答 改修費用としてもう少し出る。

問 水道料金が低い。福祉施設にかかわっているが、介護等の福祉施設では水道の利用も多く、経費がかさむ。福祉施設等への補助として、水道料金の軽減はないか。

答 全市統一での水道料金制度であるため、現状ではなかなか難しい。

第2部【住みよいまちづくりについての主な質疑・意見】

問 防災関連のボランティアに従事している。

海沿いでは避難タワー等の計画が進んでいるが、この飯高地域でも防災は大きな課題である。特に、土砂崩れ等による孤立化が懸念される。そのため、備蓄品・資材の割り増しをしてもらいたいと思う。

答 現在、松阪市全体での備蓄を進めている状況であり、担当部局と研究していきたい。

問 飯高町の166号沿い、川俣地区あたりは非常に道幅も狭く、不便である。地区からも要望を挙げているが、なかなか改善せずに困っている。

答 ご意見として承る。

問 数年前に移住してきた。現在、小学校で図書ボランティアをしている。3小学校で地域開放型の図書室を進めていくことに期待しているが、先生方も忙しく、いきわたっていない。図書整理なども含め、司書さんの増員や巡回を増やしてもらえないか。松阪図書館等との連動なども検討してほしい。

答 ご意見として承る。

問 健康センターはるるがオープンして、2回ほど定期健診で行ったが、はたしてあの施設で十分だと考えているか。松阪市は広く、全域に子育て世帯はいるはず。

答 おっしゃるとおりであると思う。ただ、地域ごとで差ができていることは事実であり、課題であると思う。はるるは子育て支援の拠点として、保健師が常駐していたり、子育てコンシェルジュがいたり、保健師の各地域担当の家庭訪問も実施しているところである。また、全市で情報を確保できるよう、子育てアプリ【まつぷり】をスタートさせた。

逆に、飯高・飯南地域であつたらいいなというサービスなどがあれば教えてほしい。

意見 まちなかの子どもたちが野山や河原に遊びに来てくれるような仕掛けや取り組みを進めてほしい。まちの子どもたちと田舎の子どもたちが交流できるような形になれば、素晴らしいと思う。アウトドアインストラクター等のサポートの上で、子ども連れが楽しめる取り組みを求めたい。大台町では自然学校のような形で取り組まれている。

問 飯高に生まれ育ったものとして、今後、飯高がどうなるのだろうかと思う。近所の人と話をしても、10年後はこの地域に誰もいなくなるのではと不安でさみしくなる。議会において、人口減少に対する具体的な議論はあるか。

答 重大な課題であると行政も議会も受け止めており、先進地の取り組みや状況を研究している。空き家バンクや若年者の新規就農への支援、3世代近居同居支援などの取り組みはあるが、まだまだ研究中である。

意見 定住しないとしても、都会からの移住者や移動者は多くいる。一説では12万人ほどいると聞く。ただ、人気のある地域と不人気な地域が存在するのは事実。より具体的な魅力や地域の情報を積極的にPRしていかなければ、もったいない。待っていても人は来ないのではと思う。

問 飯高では仕事や買い物など、交通の便が悪いことで、定住するうえでのハードルになる。空き家バンクを利用するひとたちの家賃補助や減税など、より積極的な支援・援助を願いたい。他の市町では減税等の支援をしているところもあると聞く。

答 空き家バンクへの登録も増えてきており、利用希望者も少なからずいるが、家財の搬出や撤去の問題があり、すぐに住める家屋が増えてこない問題がある。今年度、空き家対策の担当部署ができ、移住推進の取り組みも進めていくところであるが、まだまだこれからであろうと思う。鳥取県などの先進地の研究も含め、どういった施策が求められているのかも含め、しっかりと向き合っていきたい。

意見 地域おこし協力隊が全国各地で、よその地域から来た若者が、その地の新鮮な情報発信をしてくれていると聞く。松阪市でも募集中だと思うが、力強い人材を採用して、飯南飯高の発信を進めてほしいと願う。